

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

報道関係各位

2011年5月



【作者】イラストレーションコース 3年 秋葉 美津希さん

※本作品は、5月20日(金)～5月31日(火)に小田急百貨店 新宿店本館12階レストラン街「マンハッタンヒルズ」で開催中の宝塚大学『e 顔(いいかお)バッグ展』に出展しております。詳細は p.10 をご参照ください。

「宝塚造形芸術大学」は、2010年4月に「宝塚大学」へ名称変更しました

<宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問合せ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室

担当: 山本、金澤 TEL:03-3367-3411

<ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社

担当: えがしら たかはし かんの 江頭、高橋、菅野 TEL:03-3571-5228

キャリア教育科目「ポートフォリオ制作実習」授業を新設

本年度よりキャリア教育科目として、「ポートフォリオ制作実習」の授業を新設しました。

ポートフォリオとは、自分が制作した作品をまとめた作品集です。クリエイターを志望する学生にとって、ポートフォリオの制作は就職活動やキャリアアップのために必要なスキル。志望する仕事にマッチしたポートフォリオを戦略的にアピールできるかどうかで、就職活動の成否が決まります。本授業では、ポートフォリオの制作手法を学び、志望職種に合ったものを授業内で完成させることを目指しています。

第3回目となる授業では、ポートフォリオ制作の最初のステップとして、「ポートフォリオレポート」を作成。自分が大学・コースを選んだ理由、志望職種、志望業界の将来展望、興味のある企業などをひとつのレポートにまとめる作業を行いました。また、興味のある企業の採用ページを調べ、求める人材や職種なども各自が調査しました。

志望職種が同じ者同士での意見交換も行われ、就職活動のエントリーシートで必要になる「大学・コースを選んだ理由」や、「志望職種を募集している企業」について、様々な意見交換、情報交換が行われました。

今後の授業では、希望する会社の志望職種に就くにはどのような技術が必要で、さらにその技術があることを示すためには、どのような作品やポートフォリオを制作する必要があるかなどを掘り下げていく予定です。

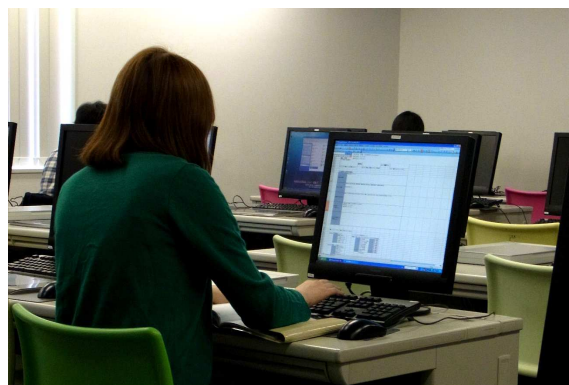
本授業を担当する中路先生は、「この授業では、“ポートフォリオはこう作った方がいい”という一方的な講義形式ではなく、学生自身が調べて、学生同士で情報共有・交換をする、みんなで切磋琢磨していく環境を作り上げたい。また、現在就職活動をしている4年生に、実際に就職活動して感じたことをフィードバックしてもらおうとも考えています」と今後の授業の展開を話しました。



学生の質問に答える中路 真紀 先生(右)



希望職種が同じ学生たちが意見交換



「ポートフォリオレポート」を入力する学生

1.HOT TOPICS—②

スマートフォンアプリ開発の授業を新設

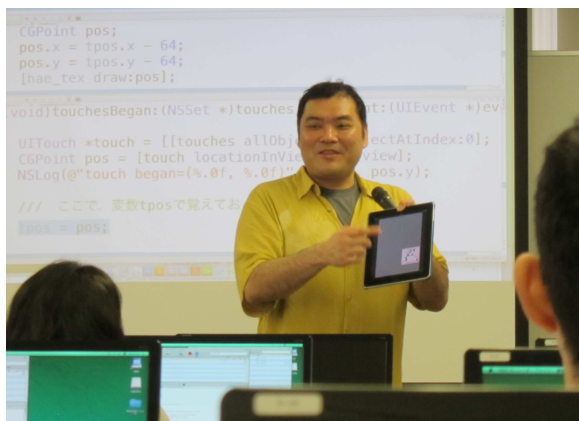
新学期より、iPhone/iPod/iPad 用のゲームアプリ開発の基礎となる「ゲームプログラミング入門」の授業がスタートしました。講義では、ゲームのプログラムがどのようにして作られているのか、データ構造や数学、2D、3D の CG など、ゲームを構成する諸要素について、実際にプログラミングを通じて学びます。

授業を通じ、ゲームプログラムがどのような理論や技術を背景にしているか理解を深め、Photoshop や Maya のソフトで作成したデータとプログラムを連携させながら、プログラムで“できること”と“できないこと”を知ることが狙いです。

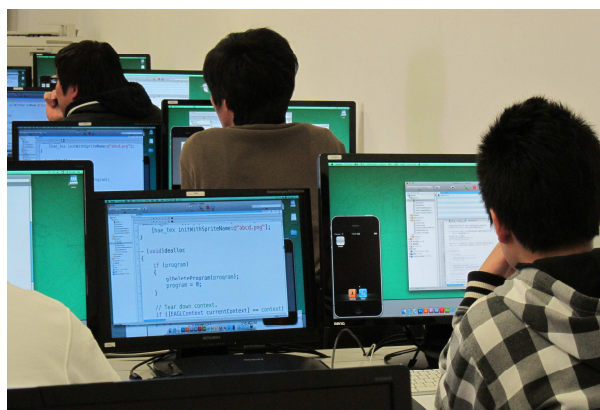
尾形先生は、課題に挑む学生の質問や作業の疑問点の一つひとつ丁寧に回答し、プログラミングの難しさや楽しさを分かりやすく学生に伝えていました。また、「1個のプログラムに対して変数は何百何千と出てきます。この変数を一つも間違えることなくプログラマーは管理している。iPhone で言えば、画面にタッチしたときの微妙な余韻もすべて計算した上でプログラムされています」、「みなさんの中で、プログラムが全然わからないという人もいますが、時間がかかって当たり前です。プログラムは少しずつ理解して、動かして、また戻る、というスパイラルで覚えていかなければなりません」と熱心に講義していました。



授業を担当する尾形 薫 先生



授業では実際に iPad を用いながら説明



講師の作業をモニターで見ながら進行

1.HOT TOPICS—③

週刊少年サンデー主催『第2回クラサン杯』に2作品を出展

「週刊少年サンデー」(小学館)が運営するコミック WEB サイト「クラブサンデー」上で開催されている「第2回クラサン杯」に、マンガコース3年 杉本 沙祐里(ペンネーム:灰高 モズ)さんの作品『歌うたいと鉄の鳥』とマンガコース 第一期生 杉田 智代(ペンネーム:青山 望)さんの作品『学園天国』が本学の代表作品としてエントリーされました。

「クラサン杯」は、全国のまんが系スクール(まんがの制作を学ぶことのできる専門学校、短大、大学)の生徒を対象にした投稿まんがのコンテストです。エントリーされた作品は、「クラブサンデー」のサイト上ですべて公開され、読者投票および「クラサン杯」事務局の審査により、優秀作品が決まります。

昨年開催された「第1回クラサン杯」では、マンガコース第一期生の黒郷 ほとりさん(ペンネーム)の作品『セイレーンのまどろみ』がグランプリに選ばれました。これにより、黒郷さんは奨学金50万円と、新作読切作品を「少年サンデー」に掲載できる権利を獲得しました。なお、『第2回クラサン杯』のWEBサイトでは、黒郷さんの描いたイラストが使用されています。

今回、本学からの代表作品となった杉本 沙祐里さんと杉田 智代さんの作品は、「第2回クラサン杯」WEBサイトで読むことができます。両作品で、昨年に引き続きグランプリ受賞を目指します。



杉本 沙祐里さん作品『歌うたいと鉄の鳥』



杉田 智代さん作品『学園天国』

杉本さんコメント:

子供は不自由の塊です。生まれる環境は選べないし、大人たちの不条理に逆らうこともできません。私が描くのは、そういった言わば運命に抗う子供たちです。どうぞみてやってください。

杉田さんコメント:

どこにでもある学校のどこにでもある席替えの様子です。が…好きな子の隣の席をゲットするためには手段を選んでられませんよね。

「第2回クラサン杯」WEBサイト : http://club.shogakukan.co.jp/kod/cs_cup_2nd.html

「クラブサンデー」WEBサイト : <http://club.shogakukan.co.jp/>

1.HOT TOPICS－④

2011 年度 第一回オープンキャンパス開催

今年度の第一回オープンキャンパスが4月24日(日)に行われました。当日は、各コースの紹介、模擬授業(講義・実演)の他、各コースの作品展示・説明、映画コース、アニメーションコースの卒業制作の作品上映など、多彩な見学コースに多くの高校生が参加しました。

ゲームコースの作品展示コーナーでは、学生が参加者にiPadのゲームアプリの遊び方を説明。マンガコースの模擬授業では、プロのマンガ家としてデビューを目指している卒業生の黒郷 ほとりさんによるマンガ指導、イラストレーションコースでは、学生によるアトラライブイベントなどが行われました。映画コースでは、大学構内で実際に撮影を行い、参加者たちは真剣に撮影を見学していました。また、学内にある心田庵(茶室)では抹茶がふるまわれ、好評を博しました。



工夫を凝らした模擬授業



オープンキャンパス参加者へのマンガの実技指導



イラストレーションコース在学生による
ライブペインティング



教室にずらりと並ぶ在校生たちの作品

1.HOT TOPICS－⑤

イラストコース 北見教授の作品が大学・学部案内の表紙絵に

宝塚大学では、本年度の大学案内及び学部案内の表紙絵にイラストレーションコース 北見 隆 教授の作品を採用しました。学部案内は、宝塚キャンパスの造形芸術学部、大阪 梅田キャンパスの看護学部、新宿の東京メディア・コンテンツ学部で、それぞれ共通のデザインとなっております。



北見 隆教授が作成した大学案内、学部案内のイラスト

<北見 隆 教授 プロフィール>

1952年東京都生まれ。1976年武蔵野美術大学商業デザイン科卒。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』で知られるイラストレーター。1987年には「第13回サンリオ美術賞」、1997年には「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のりんご賞」を受賞。1986年より展示会を毎年開催。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動している。

1.HOT TOPICS—⑥

「情報ボランティア」として岩手県の被災地へ

映画コース4年 小林 祐さんが、東日本大震災の被害を受けた岩手県の避難所で5月1日から5日の5日間、「情報ボランティア」として活動しました。『なんでも調（す）べっ隊』と称したこの活動は、避難所にパソコンを設置し、被災者の方が必要とする情報の提供、高齢者へのパソコン教室、要望に応じて被災者の方の楽しみとなるコンテンツ（映画など）を提供するものです。



情報ボランティア「なんでも調べっ隊」のメンバー

この活動は、文部科学省の「ボランティア推進の取組について」の方針のもと、NPO 法人 NPO 事業サポートセンターが実施主体となっており、第一陣として全国の大学から17人の学生が参加し、グループに分かれて、岩手県の各避難所で情報サポート業務を行いました。今後も、「情報ボランティア」の活動は震災で被害を受けた各県を対象に実施される予定で、情報サポート業務と同時に、今回の活動を通して得られた被災者の様々なニーズ、子どもたち、お年寄りの方のケアなどの情報は、今後の各種ボランティア活動の参考として活かされることになります。

小林さんは、5月1日に東京を出発し、同日は岩手山青少年交流の家にてボランティア研修を受講。翌日、メンバーは釜石市、大槌町の各避難所に分かれ、小林さんは釜石市民体育館に派遣されました。ブースには、安否確認や仮説住宅の抽選結果、障害年金の受給について教えて欲しい、などの依頼があり、小林さんらは一つひとつの要望に対して出来るかぎりの情報提供を行い、また、支援物資の効率的な在庫管理ができるようにデータ整理も行いました。また、町内会長からの依頼による高齢者向けのパソコン講座の開催、娯楽の少ない中での映画の上映なども行いました。

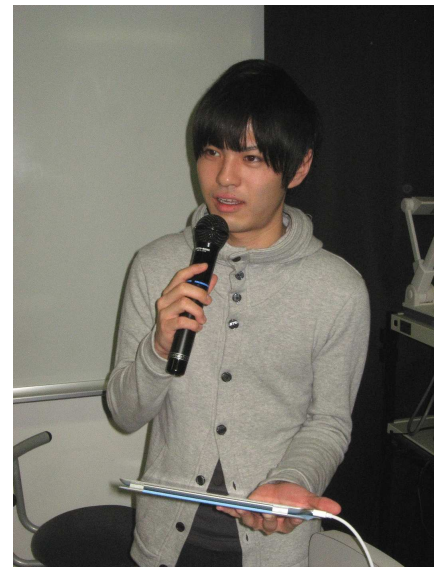
小林さんによる総括：一日目はブースが子供の遊び場と化してしまい、依頼をしづらい環境となった。天気情報以外の依頼がなく、それを情報ボランティアのニーズがないと早合点してしまった。ブースの位置を変え、訪ねやすい雰囲気を作ったところ、様々なニーズがあることが判明した。また、依頼を受けてから考えるのではなく、予想されるニーズには調査方法を前もって共有しておくべきであった。

活動終了後の5月12日には本学で、今回の「情報ボランティア」の活動の橋渡しをした渡邊 哲 准教授の「マルチメディアデザイン」の授業で小林さんによる活動報告が行われました。授業は「サイバーキャンパス」で宝塚キャンパス（兵庫県）と通信回線で結び、阪神淡路大震災を幼い頃に体験した宝塚キャンパスの学生も小林さんの作った映像を真剣に見入っていました。

◆情報ボランティアに参加して（映画コース4年 小林 佑）

テレビなどのメディアから得た情報を前提に現地に行ったが、現状は多難であった。各避難所に存在する衣食住に関する格差や情報取得手段の乏しさ。そういった問題があるからこそ、私たちが派遣されたのだが、学生側、運営側、それぞれの事前準備の甘さがあって成果はまばらとなった。

今回は第一陣トライアルという形ではあったが正直、避難所の方々との別れの時、外国にホームステイしたような感覚と似たものを感じた。それは、私たちが余裕ある暮らしが帰宅後には待っているという危機感のなさ、相手の気持ちに寄り添いきれていないことが原因ではないだろうか。この気持ちはオリエンテーションや講義などで取り除けるものでもない。実際、自分自身が経験しなければ、彼らの気持ちに本当の意味で寄り添い、彼らの立場に立つことは難しい。



自ら体験した内容を映像にまとめ授業で報告

私は彼らに共感も哀れみの目も持っていないが、彼らはとても強く生き、未来を生きようとしている。私たちはただ見ることしかできなかった。だが、私たちをある程度許容してくれた彼らの大きな気持ち。私が行った釜石市民体育館では、衣食住にはそこまで困っていないという状況だったこともあるだろうが、その気持ちを見習い、噛みしめて生きていかなければならないのでは、と自身に問いかけ、同時に未熟さを痛感した。

そしてなによりメンバーとなった学生たち。彼らはいわゆる「秀才」ぞろいであった。一日が終わり、反省会ではしばしば論争があった。だが、私はその中に入り切れなかった。なぜか。それは私と彼らの考え方、生き方が違うからではと感じた。私は感情的人間なのだと理解した。時間のない中で情報ボランティアに必要とされていたのは迅速な対応、合理的な方法論だった。実際、あの場では私はほとんどの意見は正しいと思ったし、理解もした。だからこそ時間のない状況では意見を言わなかった。

今回の体験で、本当に優秀な人たちがいることと自分の無力さを知ったが、同時に知見が広がったようにも思える。クリエイターを目指す我々にとって、合理的な方法論は当然必要であるが、それだけではない。人の心に届くものを作るということは、感情的なものをどのようにとらえ、処理し、形にするかも必要である。自分自身に求められるもの、自分だからこそできることは多くあるのだと改めて考えさせられた。今回の様なボランティア活動は継続的に行うことも重要であり、今後も活動に参加していきたい。

2.教員紹介

安田 隆浩 専任講師

4年間のうちに色々なことを試して、自分の表現を広げて欲しい

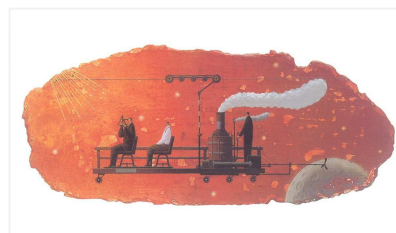
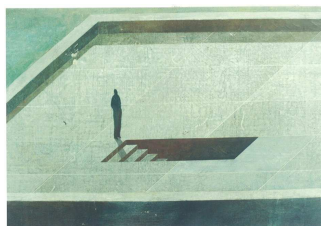
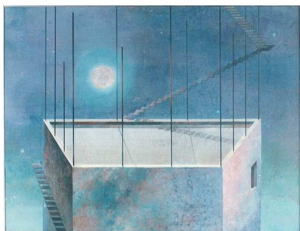
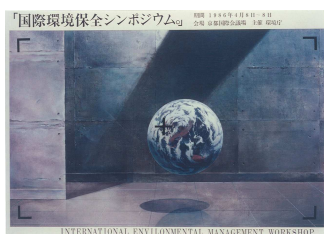
イラストは、基本的に絵自体が独立して存在するものではなく、目的があって、その目的に合わせて描くもの。社会に出て、仕事としてイラストを描くことになればビジネスとして当然で、その為にはあらゆる分野に興味を持つことが後に生かされます。大学時代の4年間は、自分の好きなように時間を使えますが、できるだけ社会に目を向け、社会と自分の接点を見つけ、「他」と接することで自分の内面を新しく広げて欲しいと思います。今年入学した学生にも、大学に入ってきて興味があるものだけが全てじゃないと伝えています。



安田 隆浩 専任講師

近々、東日本大震災のチャリティも兼ねたイラストレーションコース主催の『e顔^{いいかお}バッグ展』を開催します。学生には、「e顔」(いい顔、笑顔、エコロジー)をエコバッグに描いてくれるよう有志を募りました。震災地へ思いを馳せながら、“今の日本を少しでも明るく元気にしたい”、“勇気づけられる笑顔を届けたい”という思いを絵に表現することで、自分の絵を客観的に評価して見つめ直す良い機会にして欲しいです。

私が高校生の頃は、当時、イラスト専門の大学はありませんでした。高校3年生の頃からイラストレーターになりたいという願望がありましたが、大学ではポスターのデザインなども含め、とにかく色々な絵を描きました。作風は固まっていませんでしたが、卒業制作の作品から「見ている人がほっとしてくれて、気持ちが温くなる」という現在描き続けている作品のイメージに近いものに固まっていきました。アイデアや発想を得るには違うジャンルに触れることも必要です。日本画を参考にしたいいいし、画材も自由です。自分の表現を広げ、自分の可能性を試してください。



大学時代の作品 (下段の作品が卒業制作の作品一部)

現在の作品(一例)

<安田 隆浩 専任講師 プロフィール>

昭和36年東京生まれ。東京藝術大学美術学部卒業。『あんず林のどろぼう』(立原えりか・作/岩波書店)、『走りつづけて、かがやいて』(立原えりか・作/旺文社)、『かいぞくゼリービーンズ』(渡部めぐみ・作/ベネッセ)などの童話の挿絵をはじめとして、本、CDのカバーイラスト、広告など幅広い創作活動を行っている。

3.今後の予定

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：2011年5月29日（日）、6月19日（日） 両日とも12：30～

内 容：大学紹介、入試説明、模擬授業、マンガ描き方講座、個別相談、キャンパスツアーなど

■ 宝塚大学 『^{いいかお}e顔バッグ展』

期 間：2011年5月20日（金）～5月31日（火）

日 時：11時～22時（最終日は15時まで）

会 場：小田急百貨店 新宿店 本館12階 レストラン街「マンハッタンヒルズ」

主 催：宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部（監修 イラストレーションコース 北見 隆 教授）

後 援：新宿区

協 力：小田急百貨店

入場料：無料

内 容：イラストレーションコースの学生によるオリジナルエコバッグ展『^{いいかお}e顔バッグ』展では、学生が人間や動物の“いい顔”や“笑顔”を描いたオリジナルエコバッグ約50点を展示。タイトルの『^{いいかお}e顔（いいかお）』は、「いい顔」「笑顔」「エコロジー」の意を表し、来場者に笑顔になってもらい、かつ、エコ意識も高めて欲しいという思いで名付けました。また、赤ずきんをモチーフにしたイラストレーションコースの作品集「Little Red Riding Hood」の原画をプリントしたエコバッグも同時展示します。

なお、5月28日（土）13時～15時、29日（日）16時～18時には、東日本大震災の被災地復興支援として、募金をしていただいた方に学生有志が来場者の似顔絵をエコバッグに描き、プレゼントするチャリティーイベントを実施いたします。集まった募金は、義援金として日本赤十字社に寄付する予定です。



『^{いいかお}e顔バッグ展』ポスター

■ 第3回 「農山村ふれあい市場」（東日本大震災復興支援イベント）

日 時：2011年5月29日（日） 10時～15時

開 場：新宿区立大久保公園

内 容：宝塚大学ブースを出展し、来場者の似顔絵を描くサービスを予定。

■ 第一回 歌舞伎町アートマーケット（歌舞伎町ルネッサンス！大好き東北プロジェクト）

日 時：2011年6月4日（土）、5日（日） 11時～17時

開 場：新宿区立大久保公園

内 容：宝塚大学ブースを出展し、エコバッグの販売（チャリティ）やアートイベントを予定。

■ 竹内 一郎 教授 作・演出の舞台「からくり備右衛門」

日 時：2011年5月26日（木）～29日（日）

会 場：新宿・紀伊国屋ホール（JR 新宿駅東口より徒歩5分）

内 容：大きな時代の流れにより『明治の発明王』、『東洋のエジソン』と呼ばれる男に成っていく、現在の東芝の創業者の一人である田中 久重の半世紀に渡る物語を、久重と同郷である久留米出身の竹内教授が書き下ろした作品です。